

生涯一〇〇年記念・陶祖八〇〇年記念・瀬戸市美術館特別展

鈴木青々展



二〇四年十二月二十九日〔土〕—二〇五年一月十八日〔日〕

入館料 大人・三〇〇円・二四〇円、高大生・二〇〇円・一六〇円

※二〇名以上の団体は「」内の入館料。
※中学生以下・高齢者・障害者・学生は特別の優待料。

開館時間 九時～十七時 入館は十六時三十分まで

休館日 十二月九日火、十二月二十八日〔日〕、一月四日〔日〕、一月十三日火
主催 瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団

鈴木青々展

鈴木青々(すずきせいせい、1914～1990)は、河本五郎と加藤舜陶とともに「瀬戸の三羽鳥」と呼ばれ、瀬戸陶芸を牽引し、その発展に大きく寄与した陶芸家の一人です。

青々は、瀬戸の農家に生まれ、叔母の陶器店で働きながら、昭和13年(1938)に作陶の道に入りました。春陶会(現瀬戸陶芸協会)のリーダーであった加藤幸仙から薫陶を受け、昭和15年(1940)の文展に初入選、以後文展、日展を活動の場とし、昭和28年(1953)には特選を受賞しました。青々は、制作にあたり、常に独自の技法を取り入れ、初期には意匠に布目模様を採用し、独自のフリット釉を生み出すなど、色絵陶磁器において「色彩の魔術師」と呼ばれました。海外へ陶磁器の現地調査に赴き、ペルシアやエジプトで集めた原石の粉砕粒を作品の表面に貼り付けて繪架を施した「彩砂磁」、 「彩光風」も高い評価を得ています。また陶鑿も数多く手掛け、青々陶芸の特徴の一つとなっています。

本展は、鈴木青々の生涯100年を記念し、50年以上の作陶人生の中で制作された代表作約40点を一堂に展示し、鈴木青々の業績を回顧するものです。合わせて、生涯にわたって制作していた陶製約10点の写真を展示いたします。

本展により、鈴木青々の多彩な作品をご覧いただくとともに、陶芸への探求心を感じていただき、瀬戸の陶芸文化の発展に寄与できればと思っております。



写真 左上から《布目筆文鉢》径 34.5 cm / 《彩光石鉢》1971 径 35.5 cm / 《洪彩青茶碗》径 13.5 cm / 《彩光石多子碗》1972 高 29.5 cm / 《彩石杯》2975 高 39.0 cm / 《天竺魚文花器》径 31.5 cm

■ギョウリートーク

講師：鈴木龍陶武氏(鈴木青々のご令孫)
日時：2014年12月6日(土)

午後1時30分～

場所：美術館展示室
※事前申し込み不要、要人館料

■近隣施設のご案内

○愛知県陶磁美術館

特別企画展「川原中平子遺物展～その芸術的生涯～」

11月1日(土)～12月26日(金)

テーマ展「黒と白のやさしさを愛した白」

11月15日(土)～12月14日(日)

問い合わせ Tel.0661-84-7474

○瀬戸市ミュージアム

企画展「瀬戸市立中学校・特別支援学校 学校のあそび大発表！」

11月15日(土)～2015年1月4日(日)

問い合わせ Tel.0561-97-1190

○瀬戸市工芸工房

企画展「明治・大正・昭和の備前」

10月1日(水)～12月27日(土)

問い合わせ Tel.0661-89-6001

○瀬戸市新築紀工芸館

企画展「瀬戸のタタラの魂展～舟日、今日、明日へ～」

10月11日(土)～2015年1月25日(日)/問い合わせ Tel.0561-84-1093

■開館時間

陶製800年記念・愛知展・瀬戸市共同企画展「絶倫の北沢デザイン展」

常設展「瀬戸市セラミック&ガラスアート交流プログラム」特別制作作品展

常設展「匠魂作品展」

〒466-0864 愛知県瀬戸市西沢町113-3 瀬戸市文化センター内

Tel: 0561-84-1093 FAX: 0561-95-0415

E-mail: art@cityseto.lg.jp URL: http://www.seto-cul.jp/



瀬戸市美術館
Seto City Art Museum



○休館日 金曜日から(所要時間の1時間)
休館日 祝日(例)11月3日(祝)、12月31日(祝) 観望台(例)11月3日(祝)、12月31日(祝)
○名古屋IC: 名古屋ICから(所要時間の30分)
名古屋東環状(名古屋IC)から名古屋IC(所要時間の15分) 徒歩7分(徒歩)
○セトと赤津ICから(所要時間の10分)
東海環状自動車道(名古屋IC)から(所要時間の15分) 徒歩7分(徒歩)